

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	109人	算数	109人	理科	109人
------	----	------	----	------	----	------

第5学年	国語	96人	算数	96人	理科	96人
------	----	-----	----	-----	----	-----

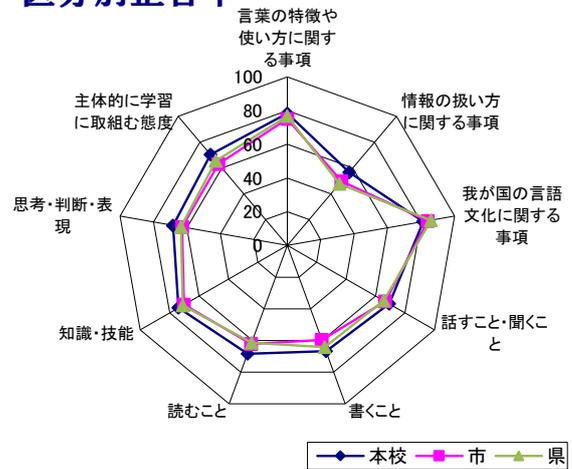
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	78.4	75.1	76.7
	情報の扱いに関する事項	56.7	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	81.3	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	69.3	66.5	65.5
	書くこと	66.8	59.6	64.2
観点	読むこと	68.4	62.2	61.5
	知識・技能	74.0	70.2	71.1
	思考・判断・表現	68.3	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	70.3	63.0	65.5



## ★指導の工夫と改善

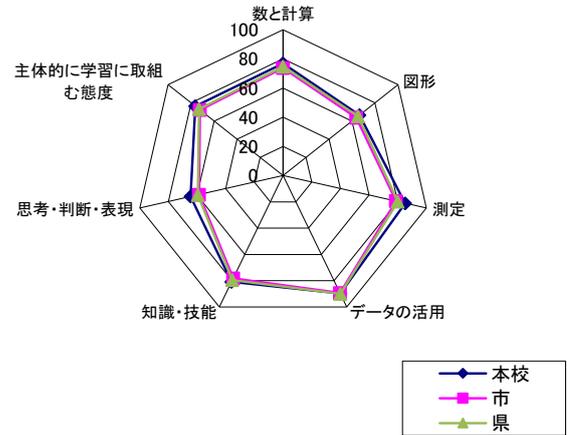
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>○校内正答率は78.4%で、県の平均正答率を3.3ポイント、市の平均も4.7ポイント上回った。</p> <p>○漢字の読み書きについては、書き1問を除き、音読み熟語、訓読み、送り仮名のある漢字の読み書き、ローマ字表記の読み、いずれも県の平均を上回った。3年生の漢字はしっかり身に付いている児童が多いと見られる。</p> <p>○「ローマ字で表記されたものを正しく読んでいる」設問では、県の平均正答率を3ポイント上回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・朝の学習や家庭学習で国語の教科書の復習ページ、AIDリル等を使用しながら、既習の漢字を繰り返し練習する機会を設け、定着を図っていくようにする。</p> <p>・新出漢字を指導する際は、漢字の意味や熟語に触れながら、意欲的に学べるようにする。</p> <p>・各教科の授業で、学習用/パソコンのキーボードに触れ、ローマ字に慣れる機会を増やしていく。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>○校内正答率は56.7%で、県の平均正答率を8.9ポイント、市の平均も7.1ポイント上回った。</p> <p>○国語辞典の使い方の理解は、県の平均正答率を10.5ポイント上回った。</p> <p>○「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約している」設問や「情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉えている」設問では、どちらも県を上回り、情報の選択ができる児童が多いと考えられる。</p>	<p>・漢字辞典の使い方を比較しながら、国語辞典の使い方の復習をしたり、国語のみならず、ほかの教科や家庭でも国語辞典を活用し、正しい使い方が身に付くようにする。</p> <p>・説明文の学習を通して、話の内容の中心を考え、必要な情報を選ぶ活動を繰り返して、まとめる力を身に付けていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●「漢字のへんやつくりを理解している」設問について、校内正答率が県を4.6ポイント、市を2.7ポイント下回った。</p>	<p>・国語の「漢字辞典の使い方」の学習時、部首索引を活用する機会を多く設ける。</p> <p>・新出漢字を指導する際には、部首の位置や名前などの漢字の成り立ちを意識させ、知識を高める指導を行う。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○「調べ方について話し合う」問題の中の互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる設問では、県の正答率を12ポイント近く上回った。</p> <p>●「情報と情報の関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉える」問題では、県を2.4ポイント上回っているものの、正答率自体が39.3%と高くはない。話し合いの中の2人について話の内容を個々に捉える必要があるため、正解することが難しかったと見られる。</p>	<p>・聞き手に要旨がしっかりと伝わるように話の内容を整理したり、言葉を吟味したりして話すことを意識させる。</p> <p>・相手の話を正しく理解できるように、メモを取る技能を高める指導を行う。</p>
書くこと	<p>○「自分の考えを明確にして文章を書く」「自分の考えをそれぞれを支える理由や事例を明確にして文章を書く」の設問では、両方ともに県を5~8ポイント上回った。</p> <p>●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の設問では、県を1.2ポイント低かった。2段落で書く条件を満たさなかったことが原因と考えられる。</p>	<p>・自分の考えや理由を表現する機会を授業中や宿題等で繰り返し取り組ませることを継続し、書くことへの抵抗感を下げながら確かな文章力を高められるようにする。</p> <p>・段落をつける意味や書き方等を指導し、正しい書き表し方を身に付けながら表現する力を育てる。</p>

読むこと	○「物語の内ようを読み取る」「せつ明文の内ようを読み取る」の設問において、県を5～13ポイント上回っている。	・物語や説明文のどの段落でどんなことを言っているのか理解が図れるよう、文章の意味を考えさせたり、段落ごとの主旨を要約させたりして読む力を養っていく。
------	--	--

# 宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.9	73.8	74.8
	図形	66.4	63.7	65.3
	測定	85.2	78.9	80.1
	データの活用	89.7	89.3	90.0
観点	知識・技能	80.9	78.3	79.5
	思考・判断・表現	64.6	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	76.4	72.3	73.1



## ★指導の工夫と改善

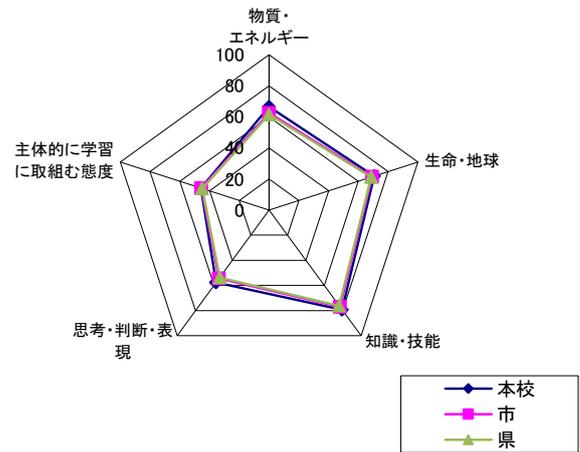
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「大きい数」の問題では、校内正答率が県平均を5.2ポイント上回っている。 ●数直線上に示された分数を読み取る問題では、県の平均を5.4ポイント下回っている。	・「大きい数」では数の相対的な大きさを理解できていたが、「小数」になると数の相対的な大きさの正答率が下がったので、「整数」「小数」「分数」それぞれの違いや数の大きさの理解を数直線や図を使って深めたい。
図形	○図形に関する問題は全部で3問あり、箱に入っているボールの半径を求める問いでは県の平均を5.7ポイント上回っている。 ●二等辺三角形の作図の問題と円の直径を表している線を選ぶ問題では県の平均を下回った。	・朝の学習の時間などを使って図形に関するプリントを解かせて定着を図る。 ・今後の単元で図形に触れるときには、児童の理解の定着度に応じて指導の仕方を工夫しながら定着を図る。
測定	○「時ごとと時間」に関わる問題では、県の平均正答率を6ポイント以上上回った。また、身近にあるものの重さを推察する問題では、県の平均正答率を11ポイント以上上回った。	・長さについて、およそのイメージを実生活に結びつけて考え、量的な感覚を具体的にもてるようにしていきたい。 ・はかりの1目盛りの大きさに着目し、正しく読み取ることができるようにするために、児童の理解の定着度に応じて指導の仕方を工夫しながら定着を図る。
データの活用	○棒グラフを正しく読み取る問題や棒グラフの1めもりの大きさに着目して間違いを指摘する問題と複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る問題は、県の平均正答率と同程度だった。	・棒グラフの1めもりの大きさに着目し、正しく読み取ることができるようにするために、児童の理解の定着度に応じて指導の仕方を工夫しながら定着を図る。

# 宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.5	62.5	61.5
	生命・地球	70.6	69.2	68.6
観点	知識・技能	79.4	77.2	76.3
	思考・判断・表現	57.7	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	45.8	45.5	44.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「じしゃくのせいしつ」の自由に動けるようにした磁石のN極は、どこを指すかを問う設問での校内平均正答率は、県平均を11.8ポイント上回っている。</p> <p>○「音のせいしつ」の糸電話の音の伝わり方をもとに、糸をつまんだ箇所を指摘する問題の平均正答率は、県平均を10.4ポイント上回っている。</p> <p>●「電気の通り道」の電気を通すものと通さないものを答える問題の平均正答率は、県平均を7.2ポイント下回っている。</p>	<p>・実験や観察に対して興味関心をもって取り組んでいる様子が見られるため、今後も年間指導計画に沿った着実な実施を心掛けていく。</p> <p>・観察、実験の目的を明確にし、予想や結果、考察を整理してまとめる活動を繰り返し行うことで、論理的に説明する力をつけていく。</p> <p>・実験結果を身近な生活と結び付けたり、繰り返し復習をしたりすることで、知識の定着を図るようにする。</p>
生命・地球	<p>○「太陽と地面の様子」の温度の変わり方を比較する方法を考える問題の平均正答率は、県平均を11.4ポイント上回っている。</p> <p>○「植物の育ち方」のホウセンカの育つ順と草たけの関係を読み取る問題の平均正答率は、県平均を6.7ポイント上回っている。</p> <p>●「身近なしぜんのかんさつ」の虫眼鏡の使い方についての問題の平均正答率は、県平均を6ポイント下回っている。</p>	<p>・実験器具の使い方を確実に定着させるために、情報機器等を十分に活用しながら、児童の理解を深める。</p> <p>・観察したことを大切にしながらも、多様な見方を示し身近な生活の中の現象と結び付けて考えられるようにする。</p>

## 宇都宮市立戸祭小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、楽しいと思うことがある」について肯定的回答をした児童は90.7%で、県の平均を9.2ポイント上回っている。また、「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」について肯定的回答をした児童の割合は、88.9%で、県の平均を8.4ポイント上回っており、学習への興味・関心が高い児童が多いと考えられる。「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」についての児童の肯定的回答も88.9%と県の平均を4.9ポイント上回っており、授業にも真摯に取り組む様子がうかがえることから、今後も教材や学習の進め方などを工夫し、よりよい学びの姿勢を身につけられるように授業改善を図る。

○「自分には、よいところがあると思う」についての肯定的回答をした児童の割合は、85.2%で県の平均を5.6ポイント上回っている。「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答も92.6%で県の平均を7.1ポイント上回り、自分のよさを知り役立てようという意欲が高いことがうかがえる。今後も児童の長所をよく理解し、生かした指導をしていく。

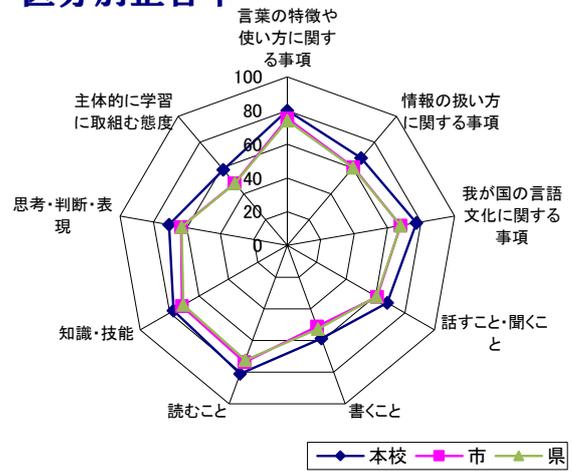
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答をした児童の割合は、51%で県の平均を2.3ポイント下回っている。また、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」について肯定的回答をした児童の割合も68.6%で県の平均を3ポイント下回っていることから、自分の考えを伝えたり、分からないことを質問したりすることに苦手意識を感じる児童がいることがうかがえる。学習への興味・関心の高さや、熱心に学習に取り組む態度を生かし、機会を増やし励まししながら、自分の考えを自信をもって発表したり、友達の考えとの相違に気づき進んで伝え合ったりする態度を養っていく。

●「早ね、早起きを心がけている」について肯定的回答をした児童の割合は75.9%で県や市の肯定的回答より低い。特に「はい」と答えた児童の割合は42.6%と県や市の平均を6ポイント近く下回っている。「毎朝、朝食を食べている」について肯定的回答をした児童の割合も県や市の肯定的回答の平均を下回っていることから、学校での児童の様子を観察し、家庭と協力して生活リズムを整えていく。

# 宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	80.1	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	67.8	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	77.2	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	68.0	61.0	60.7
	書くこと	58.7	51.2	52.8
観点	読むこと	81.0	73.7	72.4
	知識・技能	77.3	71.7	70.6
	思考・判断・表現	70.7	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	58.5	48.2	48.1



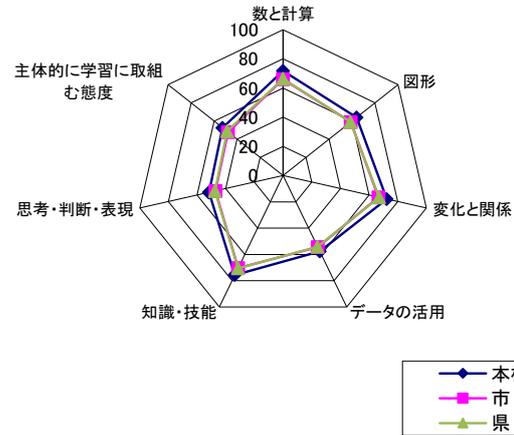
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>○平均正答率は80.1%で、県の平均を6ポイント、市の平均も4.7ポイント上回った。</p> <p>○「漢字を読む」「漢字を書く」のどちらの問題においても、正答率は県と市の平均と同じか上回っている。第4学年の漢字は定着している様子が見られる。</p> <p>●言葉の学習の連用修飾語についての理解は、県の平均と同程度であるが、他の設問と比較すると低く、課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・朝の学習や家庭学習の課題とし、教科書にある前学年までの漢字の復習ページを活用し、さらなる知識の定着を図る。</p> <p>・国語辞典や学習用パソコンを活用し、分からない言葉が出てきたときにはすぐに調べ、語彙を増やす機会を設ける。</p> <p>・読書を励行し、いろいろな文章に触れることで、言葉同士の関係を考える機会を増やす。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○平均正答率は67.8%で、県の平均を7.6ポイント、市の平均を7.3ポイント上回った。</p> <p>○「漢字辞典の使い方」は、県の平均を6.7ポイント上回った。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す問題では、正答率は51.1%で、他の項目と比べると低い傾向が見られる。</p>	<p>・新出漢字を学習する際には、漢字辞典を活用するなどして、漢字の成り立ちや部首の意味に触れることによって、興味をもたせ、意欲的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>・調査結果の読み取りでは、大切な文や語句などの情報に着目させるとともに、段落相互の関係を押さえる学習を、授業の中で繰り返し指導していく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○「ことわざの意味を知り、正しく使う」問題において、平均正答率が77.2%で、県の平均を9.4ポイント、市の平均を9.5ポイント上回った。</p>	<p>・ことわざや慣用句などの意味を調べる活動を取り入れ、それを用いることのよさに気付かせ、積極的に使うことができるようにする。</p> <p>・短歌や俳句の単元では、解説文を読んで昔の人のものの見方や感じ方に触れたり、実際に短歌や俳句を作って自分の思いを表現したりすることで、日本の言語文化への興味を高めていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○5つの設問のうち4つの設問で県、市両方の平均を上回った。</p> <p>○「司会の役割を果たしながら話し合い、考えをまとめる」問題では、平均正答率が60.9%で、県の平均を14.4ポイント、市の平均を12.4ポイント上回った。</p> <p>●「話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ」問題では、県や市の平均をやや下回った。</p>	<p>・話し合いの単元や、他の教科、学級活動の時間において、共通点や相違点を意識しながら話を聞いたり、話したりする活動を積極的に取り入れ、話し合いの進め方を身に付けられるようにする。</p> <p>・話の中心を考えながら聞いたり、自分の意見を相手に伝えたりする機会を増やす。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は58.7%で、県の平均を5.9ポイント、市の平均を7.5ポイント下回った。</p> <p>●作文問題では県・市の平均と比べると、同程度か上回っているが、他の領域と比べると苦手としている児童が多い傾向がうかがえる。</p>	<p>・テーマや字数など、与えられた条件で文章を書く機会を設けることで、書く活動に日常的に取り組みさせていく。</p> <p>・理由を挙げながら自分の考えを書く文章の訓練を積み重ねていく。</p> <p>・2段落になるように構成を考えて文章を書く訓練を重ねていく。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は81.0%で、県の平均を8.6ポイント上回った。市の平均も7.3%上回っている。</p> <p>○説明的文章の「叙述を基に文章の内容を捉える」問題では、本校正答率は県の平均を13.6ポイント上回っている。</p> <p>●「登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えている」や「中心となる語や文を見つけて要約している」の問題では、他の項目と比べると正答率がやや低い。</p>	<p>・説明的文章の読解においては、中心となる語や文に着目して要点をまとめたり、小見出しをつけたりして、内容を理解させていく学習を継続して丁寧に行っていく。また、段落ごとの読み取りをした後、段落相互の関係も捉えられるようにしていく。</p> <p>・文学的文章の読解においては、登場人物の気持ちを表す語や文を見つけたり、それらをもとに気持ちを考える学習を継続して行っていく。</p>

# 宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.8	66.1	66.4
	図形	64.1	58.9	58.8
	変化と関係	72.4	66.6	67.0
	データの活用	57.6	54.4	54.2
観点	知識・技能	75.7	70.4	70.6
	思考・判断・表現	51.7	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	52.6	47.8	48.8



## ★指導の工夫と改善

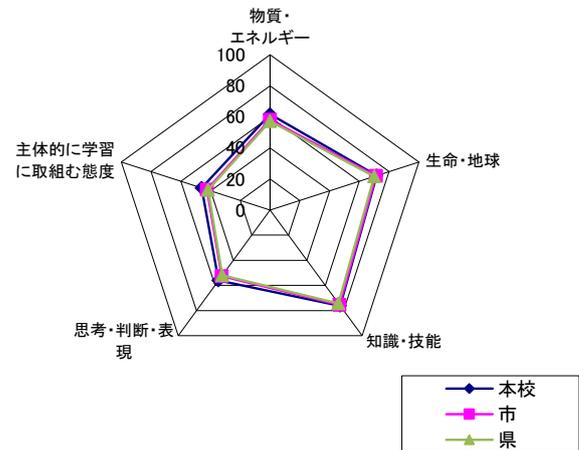
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○数と計算の平均正答率は71.8%で、県の平均正答率を5.4ポイント上回った。</p> <p>○「小数第二位÷整数=小数第二位の計算する」問題では、県の平均正答率を14ポイント上回った。</p> <p>●「四則や()の混じった式を計算する」問題では、県の平均を7.2ポイント下回った。</p>	<p>・AIDドリルなどを活用し、繰り返し復習して確実に既習内容が身に付くようにする。</p> <p>・数直線や式・言葉を使って計算の意味や計算の仕方を説明する活動を多く取り入れる。</p>
図形	<p>○図形の平均正答率は64.1%で、県の平均正答率を5.3ポイント上回った。</p> <p>○「面積の単位の関係を説明する」問題では、県の平均を12.3ポイント上回った。</p> <p>○「直方体のある面に平行な辺を選ぶ」問題では、県の平均を8.4ポイント上回った。</p>	<p>・図形や立体の学習では、具体物を実際に観察したり操作したりする活動を通して、特徴を理解できるようにする。</p> <p>・公式を導き出して覚えるだけでなく、式と図形を関係づけて考えられるように指導を工夫する。</p>
変化と関係	<p>○変化と関係の平均正答率は72.4%で、県の平均正答率を5.4ポイント上回った。</p> <p>○「図を使って、基準量を求めるための除法の立式を求める」問題では、県の平均を11.2ポイント上回った。</p> <p>○「伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める」問題では、県の平均を7.1ポイント上回った。</p>	<p>・身の回りの物や具体物を用いて見通しをもたせたり、イメージをさせたりする活動を取り入れ、算数的な感覚を養う。</p> <p>・今までに学習した様々な単位の関係を確認したり復習したりして、定着を図る。</p>
データの活用	<p>○データの活用の平均正答率は53.8%で、県の平均正答率を3.4ポイント上回った。</p> <p>○「折れ線グラフから変わり方を読み取る」問題では、県の平均を7.6ポイント上回った。</p> <p>●「二次元表を読み取り、それを根拠に理由を説明する」問題では、他の項目と比べると正答率が低い傾向が見られる。</p>	<p>・課題意識をもち、資料内容の理解ができるように、学習体験(社会科や総合的な学習の時間など)との関連を図りながら、普段の生活の中で、データの活用を行う場面に多く触れるようにする。</p>

# 宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.7	58.1	57.2
	生命・地球	71.6	71.1	70.0
観点	知識・技能	76.3	75.5	74.4
	思考・判断・表現	56.0	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	46.0	42.4	41.7



## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は61.7%で、県や市の平均を上回った。</p> <p>○「電気のはたらき」「物の体積と温度」「物のあたたまり方」の全ての問題において県平均を上回り、実際に実験等を通して学んだことが、知識として定着している。</p> <p>●「物の体積と力」の閉じ込められた空気や水に力を加えた時にどうなるかの問題において、県平均を1.1ポイント下回っている。</p> <p>●「水のすがた」の予想に対する実験の結果を考察する問題で、県平均を1.3ポイント下回っており、学んだ知識を活用することに課題がある。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>○今後も継続的に既習事項に触れながら授業づくりを進めていくと同時に、定期的に自主学習等での復習も奨励し、知識の定着化を図る。</p> <p>・実験や観察の際には、自分の生活経験をもとに予想を考えたり、結果を考察したりすることで、根拠のある考えをまとめることができるようにする。</p> <p>・実験や観察の結果から分かることをまとめたり、考察したりする活動を積極的に取り入れ、自分の考えを文章にまとめることができるようにする。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は71.5%で、県や市の平均を上回った。</p> <p>○「天気のようにすと気温」以外の全ての問題において、県平均を上回っている。「スーパームーン」の紹介など、日頃から学習内容と関連付けて自然事象を捉えられるように工夫したことが、理科の学習に対する前向きな態度を育成し、良い結果につながっていると考える。</p> <p>●「天気のようにすと気温」の記録温度計の記録から、天気の変化を推測する問題において、県平均を4.2ポイント下回っている。基本的な観察の技能の習得とそれを実際の場面でどう活用できるか思考することに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、普段の生活と関わりのある関連項目について積極的に紹介し、児童の理科的興味関心が高まるように指導の充実を図る。</p> <p>・天気と気温の関係について、普段の生活の中で天気による気温の変化を感じることができるような場面を設定するとともに、既習事項として天気に関連する授業内で復習の機会も充実させる。</p> <p>・実験や観察後の考察の時間を十分に確保して理解を深めるとともに、普段の生活との結びつきについても考えることができるようにする。</p>

## 宇都宮市立戸祭小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」について、肯定的回答をした児童の割合が79.3%で、県平均を8.5ポイント上回っている。昨年に引き続きこの項目が県平均を上回っていることは、本校の学習指導において「めあて・まとめ・ふりかえり」を取り入れた授業づくりを行ってきた効果が表れてきていると考えられる。今後も学習指導の基本を徹底し、児童が見通しをもって学習できる授業づくりを継続して行っていきたい。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」について、肯定的回答をした児童の割合が25%で、県平均を9.8ポイント下回っている。このことから、学習への意欲が高まらない現状がうかがえる。児童たちの「もっと知りたい、やってみたい。」という気持ちが高まるような課題提示や授業展開の仕方、教材教具の工夫などに取り組んでいきたい。

○ 家庭での学習の取り組み方については、平日の学習時間が1時間以上である児童が75%で、県の平均を20ポイント近く上回っており、学校で掲げる家庭学習時間の目標は達成しているものと思われる。その中で予習復習に充てている時間は、予習が約15ポイント、復習が約10ポイント、県の肯定割合を上回っている。ただ、毎日同じ時刻に学習しているかについては、県の肯定割合を約15ポイント下回っているため、習い事等予定がある中、時間を工夫しながら学習している様子が見られる。今後も基礎基本の習熟のために、宿題、予習、復習に取り組ませていきたい。

● 平日の読書の時間が10分より少ない児童が全体の40%を占め、県より8ポイント多い。2時間以上読書をする児童もいるが全体として読書に充てる時間は少ない傾向にある。学習からの興味を広げ調べ学習に活用したり、自分の趣味を広げたりと、読み物としてだけでなく幅広く本に親しめるよう機会をとらえて促していきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」については、肯定的回答をした児童の割合が57.6%で県平均を9.3ポイント上回っている。今後も、学級活動や係活動等を通して、互いに認め合ったり一人一人の頑張りを称えあったりするなど、居がいのある学級づくりを行い、自己肯定感が高まるような取組を継続して行っていきたい。

## 宇都宮市立戸祭小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら考え、進んで学び続ける児童、学び合いを通して、考えを広げ深める児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を提示する際には、全員が理解できるような表現にすることで見通しをもたせ、授業で何をすれば良いのかを明解にする。</li> <li>伝え合う活動の充実によって児童が学んだことを自分の言葉に言い換える場を設定し、考えを深められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両学年ともに質問紙の「授業の中で、目標が示されている」と「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」について、肯定的回答率が県・市の数値を上回っている。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
両学年ともに質問紙の「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定的回答率が県・市の数値を下回っている。	すべての児童が発言できる学習形態の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰かが話しているときには自分の考えと合う合わないに関係なく最後まで聴くことを徹底していく。</li> <li>全体への発表という形式にとらわれずに児童同士が話し合える時間を確保する。</li> </ul>